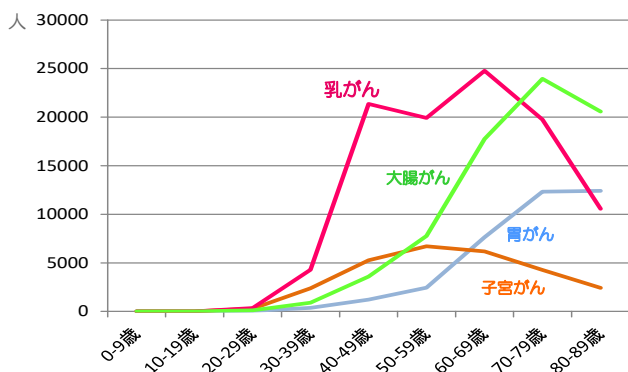


乳がん検診受けてみませんか？

乳がんは女性の罹患する癌の第1位



日本人女性の乳がん罹患数は年々増加しています。乳がんの罹患率は30歳代後半から増加し、40歳代後半と60歳代前半に罹患数が多いのが特徴です。

国立がん研究センター「がん情報サービス」
女性の乳がん年齢階級別罹患数(全国がん罹患データ、2017年)

当院の乳がん検診

マンモグラフィ



乳房エックス線撮影専用の装置で、左右の乳房を圧迫板で片方ずつはさんで撮影します(1方向、または2方向)。

しこりが触れないような小さな乳がんや、石灰化のある乳がんの早期発見に適しています。

当院では2021年4月より富士フイルム社製のデジタル式乳房用

X線診断装置「AMULET Innovality(アミュレットイノバリティ)」を導入し、**高画質**と**低線量**を両立した検査を行えるようになりました。

また、**受診者の痛みを軽減**する機能「なごむね」を搭載、乳房の厚みが変化しない範囲(±3mm)で圧迫圧を減圧し、乳房の圧迫圧が最大となっている時間を通常より短縮することが可能となっています(圧迫圧80N以上の場合)。



検査はわたしたち女性技師が担当致します。

***視触診は基本的には行っておりません**

検査の申し込み・不明な点がございましたらお尋ね下さい。

医療法人社団 静和会 静和記念病院 011-611-1111

*当院は、**札幌市乳がん検診実施医療機関**です。

超音波検査



乳房に超音波を当て、乳房内部の状態を知ることができます。乳房内の病変の有無、しこりの大きさ、わきの下など周囲のリンパ節への転移の有無などを調べます。

マンモグラフィでは乳腺組織が多いと全体的に白く写ってしまうので、その中にある乳がんを区別して見つけることが難しい場合があります。超音波検査では、乳腺組織が多い方でも病変を比較的発見しやすいという利点があります。

若年の方は乳腺濃度が高いため、マンモグラフィと併用することでがん発見率上昇が期待できます。

(J-START という超音波検査併用の有効性を検証するための大規模比較試験の結果では、40歳代女性の早期乳がん発見率が約1.5倍に上昇すると報告されています。)